

## 『経営改善実践システム』を 活用し経営改善に取り組みましょう』

国では経営状況を数値的に把握し、将来を展望できる農業経営を実現するための「経営改善実践システム」を提供しています。このシステムは、原則としてインターネット上で操作するものですが、経営データは確定申告の決算書から転記できるため必ずしも簿記ソフトを必要としません。また、経営改善に必要な経営データ以外の取組の実施状況などと合わせ「新たな農業経営指標」と比較することで、経営の変化を把握し、経営発展の方向性と目標達成の道筋を明らかにするものです。

詳しい内容は下記ホームページで確認していただき、自ら経営改善に取り組んでいただけるようお願いいたします。

新たな農業経営指標について (<http://www.maff.go.jp/j/ninaite/shihyo.html>)

## 『平成28年凍霜害警戒期間について』

- 凍霜害警戒期間は平成28年3月15日から5月20日までの67日間。
- 農業気象情報の伝達は、報道機関の天気予報等を通じてお伝えします。  
(NHKテレビ・ラジオ、YBSテレビ・ラジオ、UTYテレビなど)。
- 凍霜害警戒期間中の技術対策は、「農作物の気象災害に対する技術対策資料」をご覧ください。  
この対策資料は、県庁農政部農業技術課ホームページに掲載されています。  
アドレス：<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/index.html>



## 『2016年春の農作業安全確認運動について』

平成28年3月1日(火曜日)から5月31日(火曜日)までは、春の農作業安全確認運動の実施期間です。今年の重点推進テーマは「一人一人の安全意識の向上で事故防止」です。

県内では、スピードスプレイヤーや高所作業機など、大型の農業機械が利用されています。また、斜面になっているほ場が多く、重大な事故になる危険性が潜んでいます。

普段、慣れている場所での農作業であっても「ここでも事故が起きるかもしれない」という意識を常に持ち続け、農業機械を利用する時は、見通しの悪い場所などに障害となるものがあるかどうかを確認しておくとともに、万が一事故が発生した際に、すぐに対処できるように、農作業は二人以上で行うようにして下さい。



# 山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集/発行 山梨県総合農業技術センター  
住所 〒400-0105 甲斐市下今井1100  
TEL.0551-28-2496 FAX.0551-28-4909  
URL.<http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-git/>  
E-mail.sounou-git@pref.yamanashi.lg.jp

No.32  
平成28年3月22日発行



### 総合技術 普及センター

## 早出しスイートコーンの低温障害を 軽減するための栽培管理技術の普及

厳冬期から早春期に播種する早出しスイートコーンは、3月下旬から4月上旬を中心に降霜などの低温障害を受けやすいため、その対策が課題となっていました。

試験研究成果(平成25年度)において、被害を受けたスイートコーンの樹勢回復には、分けつの発生を促すことが重要であることが明らかとなったことから、総合技術普及センターでは、栽培面積の多いスイートコーンの一重トンネル栽培において、分けつの発生を促すための現地実証試験を行いました(品種:ゴールドラッシュ)。そして、トンネル被覆資材に透明度の高いピニールを使用し、本葉5枚時以降にトンネルのすそを千鳥の部分開放とすることで、分けつの発生が増加し、品質の良いものが収穫できることを確認しました。

今後もスイートコーンの低温障害の軽減に向け、この技術の普及に取り組むこととしています。



現地検討会の様子



スイートコーンの子実調査

### 果樹技術 普及センター

## 気象災害に強い果樹産地づくりに向けて -「果樹の気象災害対策マニュアル」の活用を-

近年、局所的な大雨や突風、降雹、夏季の異常高温や少雨による干ばつ、さらには大雪など、いわゆる異常気象と呼ばれる現象が発生しており、毎年、作柄に悪影響を及ぼす事例が多くなってきています。

平成27年も残念ながら、ブドウの着色不良やモモの核割れなどの生理障害が発生し、果樹農家にとっては大きな痛手となっており、気象災害に強い果樹産地づくりは喫緊の課題となっています。

果樹技術普及センターでは、果樹農家が気象災害に備えた適切な栽培管理を早急に行えるよう、関係機関との検討を重ね、「果樹の気象災害対策マニュアル」を作成しました。

このマニュアルを活用し、JA営農指導員等を対象とした研修会を開催するなど、気象災害対策の周知徹底を図っていきます。

「果樹の気象災害対策マニュアル」は以下のアドレスから、どなたでも見ることができますので、ご活用ください。

山梨県 農政部 農業技術課 ホームページ

アドレス：<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/index.html>



「果樹の気象災害対策」  
研修会を実施(JAふえふき)

## 南アルプス市で「営農相談会」を開催しました

2月14日（日）に、JAこま野本所において市内の農家を対象とした営農相談会を開催しました。

この営農相談会は、規模拡大や新品種導入に取り組みたいなどの営農に関すること、農地の確保や栽培技術の習得などの就農に関すること、農地を貸したいなど、農業に関わる各種相談に応えることを目的に、JAこま野、南アルプス市、中北地域普及センターが連携し、毎年農閑期の2月に開催しています。

当日は、農家後継者が親元就農した場合の青年就農給付金（経営開始型）の給付要件や、規模拡大のためブドウの成園を貸してもらえる農家の紹介、「夢みずき」「シャインマスカット」の苗木の入手方法、生産性の低い老木から収益性の高い品種への改植・鳥獣害対策に関する補助金があるかなど、多岐にわたる相談がありました。

参加者からは、「これまで何処に相談して良かったが解決することができた」と好評でした。

今後も、新規就農者が地域農業の担い手として定着出来るよう、また、農家の営農計画の目標達成に向けた規模拡大や経営改善が促進されるよう支援を行っていきます。

**営農相談会（営農版）**

JAこま野、南アルプス市、中北地域普及センターが合同で開催します。

開催日 2月14日（日）

時間 9時～12時

場所 JAこま野本所1F

内容

- 規模拡大に関する相談（規模拡大、新品種導入に関する相談（農地の確保、栽培技術の習得など））
- 改植に関する相談（老木の確保、栽培性の低い品種から収益性の高い品種への改植）
- その他（農地を貸したいなど）
- ※ 夢みずき、シャインマスカットの苗木の入手方法

相談員 JAこま野営農指導課 市農業指導員、中北地域普及センター

申込・お問合せ 農家後継者課

電話 0262(200) 6007

JAこま野 営農指導課

電話 0262(200) 7134



営農相談会の様子

「広報南アルプス」2月号へ掲載

## 経営者としてステップアップ!!

峡東地域普及センターでは、山梨県農業会議、JA、総合農業技術センターと協力して「経営改善研修会」を開催しています。この研修は、複式簿記について学習し、農業簿記ソフトを活用して青色申告書の作成を行いながら、自らの農業経営を客観的な数字で把握することで、経営改善に活かすことを目的としています。

今年度は、入門コースの回数を増やし、経営管理の意義について学ぶことから始め、最後の研修会では経営分析に関する内容を加えました。より経営改善への取り組みを促す研修内容となったことから、受講者からは「基礎から学ぶことができ理解が深まった」という感想のほか、夫婦での参加者からは、「農業経営に夫婦がともに話し合えるきっかけになり、有益だった」との意見がありました。また、複式簿記を実践している農家のための質問相談会では、経営管理上の疑問点に応える時間が設けられ、熱心に質疑応答が行われました。

峡東地域普及センターでは、今後も農業者自身の経営改善が図られるよう、支援を続けていきます。



経営管理の意義から学んだ入門コース



複式簿記実践農家のための質問相談会

## 峡南地域では、様々な果樹の剪定講習会を開催しています

峡南地域普及センターは、市川三郷町で定年退職後に就農したいという次代の果樹農業者などを対象に果樹の基礎学習会を開催しています。また、週末に農作業をする兼業農家のために、JA西八代とJAふじかわが主催している基礎的栽培講習会の開催を支援しています。

いずれも、当普及センターとJAの職員が講師として、土曜日に座学を中心とした講義を行って来ましたが、「畑で果樹の剪定を学びたい」との声を受け、現地ほ場で剪定の講習会を開催しました。ブドウの他、管内で多く栽培されているカキ、クリ、ウメなどについて、それぞれ実際に枝を切りながら、剪定のポイントを説明しました。

特にブドウでは、新規就農者でも技術習得のハードルが低い短梢剪定栽培について、長梢剪定栽培と比較しながら実習したところ、受講生たちから「これなら簡単にできる」、「改植して、短梢剪定栽培を導入したい」などの意見が聞かれました。

当普及センターでは、このような学習会の機会を通じて、技術レベルの向上が図られるよう次代の担い手やお勧めをしている兼業農家を支援していきます。



短梢剪定の実習



長梢剪定の説明

## 魅力ある農業経営とは？…生産組織へ提案

富士北麓地域の農業経営は、野菜・花き・水稻等を組み合わせた複合経営が多く、冷涼な気候と観光立地を活かした特色ある農業が行われています。しかし、国内外からの観光客増加に伴い地域農産物の生産拡大が期待される一方で、担い手の高齢化や兼業化の進展などによる産地の弱体化も危惧されています。

そこで当センターでは、地域の農業者で構成する富士北麓花き生産協議会と富士山野菜生産者協議会との連携を図り、昨年度から農業経営に着目した合同研修会の開催を支援しています。

今年度の研修会では地元の優良経営の紹介をはじめ、日本農業経営大学の講師による経営発展のポイント等、これまで以上に踏み込んだ経営を学ぶ機会となるよう支援しました。併せて、県外における花き+米麦+野菜の複合経営と集落営農の成功事例についても紹介したことで、意欲的な生産者を中心に生産拡大に向けた自主的な動きが始まるなど、研修会の成果が現れています。

今後も会員間の連携を促す中で、野菜・花きを中心に儲かる農業の実現に向け、様々な角度から支援していくこととしています。



営農相談会の様子